

学校関係者評価報告書

愛媛県立南宇和高等学校

学校番号(48)

評価実施日		令和2年2月27日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	木村 勝彦	農業関係者 前新鮮市会長	
	山本 典政	学識経験者 元中学校長	
	安岡 宏次	地域中学校長 愛南町立城辺中学校長	
	岩井 正一	地域代表 愛南町教育委員会学校教育課長	
	伊田 光洋	保護者代表 P T A副会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 教育方針・重点目標</p> <p>時代のニーズに沿った適切かつ堅実な目標設定である。生徒がこの目標に対してどのように取り組むか考え行動できるようになると良い。</p>	<p>年度始めに、個人目標を設定している。今後は、マニフェストを意識した目標を設定させ、目標を達成することで自己充実感、達成感を味わわせるような指導をしていきたい。</p>
<p>2 学習指導</p> <p>生徒の学習意欲が低いのは土地柄でも家庭の責任でもなく、学校の指導力の問題と考える必要がある。「必ず勉強する仕組み」を作ってほしい。農業科の成果を他の分野にも広げてほしい。</p>	<p>「必ず勉強する仕組み」として、Classiを活用した家庭学習の定着を図りたい。基礎的・基本的な学習事項の定着のための課題配布、小テストの実施など小さなステップを積み重ねさせたい。ICTを活用した、学習内容の発表などの魅力ある授業の実践に取り組みたい。</p>
<p>3 生徒指導</p> <p>気持ちの良い挨拶を受け、こちらも明るい気持ちになる。校内だけでなく、校外でもできている。何か「核」となる部活動を作り、生徒が集まるくらいの活躍を期待したい。</p>	<p>生徒指導には教職員と保護者との連携が不可欠である。今後も保護者と連絡を密にし、常に生徒を見つめる目を持ち続けたい。部活動については、教員の負担の面でも部の精選が目前となっている。校内で引き続き検討したい。</p>
<p>4 進路指導</p> <p>自己評価が昨年度より改善され、教職員の努力がうかがえる。進路保障は生徒、保護者にとって最も関心が高い。生徒一人一人の適性に合ったより一層きめ細かな指導を望む。</p>	<p>今年度は始業前の課外を廃止した。生徒にも教職員にも体力的・精神的負担が改善されたと思われる。一方で、進路の成果は担任によるきめ細かな面談なくしては成り立たない状況になっている。学力の向上とともに、担任の負担を減らすことができるように取り組みたい。</p>

<p>5 学校運営への提言</p> <p>教職員対象のアンケートでの要望事項、自由記述に対する改善を進めてほしい。</p> <p>人材の流出が課題である。マスコミへの情報提供、各種イベントへの参加、グローバルGAP更新など、学校や愛南町の魅力を提供している。小学校や中学校との連携を含め、さらにアピールするとよい。</p>	<p>指導の統一性については、特に学年集会を通して教員間の意識をすり合わせ、学年集会等の行事において学校全体の統一感を持たせるようにしたい。</p> <p>学習に関する意識の向上については、「総合的な探究の時間」などを通して低学年のうちから進路目標を持たせ、目標の達成には基礎的・基本的な学力の定着が重要であることを理解させていきたい。</p> <p>前述では生徒の個人目標に触れたが、教職員でも個人目標を設定し、資質の向上に努めていきたい。</p> <p>児童・生徒数からも生徒数の減少は明らかである。本校の特色である農業科の活動を、普通科生徒も体験したりPR活動に参加したりするような取組も提案したい。</p>
<p>6 その他</p> <p>自己肯定感をほぐくむ教育活動をさらに期待したい。</p> <p>町の催しである「人権ふおーらむ」では、高校生も大切なテーマに真摯に向き合っていて感動した。このような取組を応援してほしい。</p>	<p>授業、ホームルーム活動、学校行事等を通して、自分の役割に気づき、他者の役に立つことで自己肯定感を育むことができるよう工夫していきたい。</p> <p>多様性に富む社会を構成する一員として、「違い」を受け入れることができる寛容さと、理不尽に他者を否定する差別を見抜き、仲間とともに差別に立ち向かうことのできる勇気を育んでいきたい。</p>